



食器を洗う子ども（ドロップインセンター）

路上の子どもたちが「生きていく」ために必要なこと

<路上の子どもたちの事業：担当スタッフからのレポート>

アイキャンがマニラで運営するドロップインセンター（保護施設）では、十分にご飯が食べられず、体を洗う所や寝る所もない5～14歳の路上の子ども約20名（一日あたり）に対して、食事やシャワー、勉強や仮眠の場所を提供しています。子どもたちにとって、ここは、唯一「平和に暮らせる場所」と言えます。

通常私たちは、集団行動や規律に関する多くのことを家庭や学校の中で学びます。しかし、多くの路上の子どもたちは、家庭がなく、学校に通っていないため、これらについて学ぶ機会が限られています。そのため、ドロップインセンターに来る子どもたちも、当初は、掃除や片付けもできず、また共用の物を一人で使ってしまうなど、自分のことだけ考えているような行動が多く見られました。

そこで私たちは、子どもたちを5～8人のグループに分け、各グループと話し合い、掃除や食器洗いなどの役割を決めました。グループの中で非協力的な子や役割を忘れて遅刻してしまった子たちには、毎日声かけを行うとともに、週に1回各グループとミーティングをし、子どもたちの活動において見られた変化や、役割を果たしてくれていることへの感謝を伝え続けました。

その結果、子どもたちは自分たちの役割に責任を持つようになり、互いに声をかけ合い、リーダーシップを発揮する子も出てきました。中でも最も変化があったのは、ロベルト君（14歳）です。最年長であるという自覚から、他の子どもたちの手本になろうと積極的に動くようになりました。一度当番の時間に遅刻してしまった時は落ち込んでいましたが、次のグループが当番の時に、「前回遅刻してしまったから僕もやる」と言い、自主的に掃除をしていました。最近では、当番グループの人数が足りない時にも自ら手伝っています。グループ活動以外でも、スタッフが料理など日々の活動の準備をしていると、「何かできることはないか」と逐一聞いてくるようになりました。今では、他の子どもたちは、そのようなロベルト君を「お兄さん」と呼び、とても慕っています。

人は、食事と教育があれば生きていけるわけではありません。社会の中で、他の人たちと助け合って生きていく方法を、ソーシャルワーカーとしてきちんと伝えていきたいです。引き続き応援してください。



ICAN マニラ事務所
May Ann Z. Prudencio
～プロフィール～
ソーシャルワーカー。大学卒業後、NGO や DSWD（社会福祉開発庁）等での勤務を経て、2016年5月より現職。

Project Site



●はアイキャン事業地
番号は裏面に対応

認定NPO 法人アイキャン

〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須 3-5-4 矢場町パークビル 9 階 TEL/FAX : 052-253-7299 メール: info@ican.or.jp

ホームページ <http://www.ican.or.jp> フェイスブック <https://www.facebook.com/ICAN.NGO>

Close up

I. 危機的状況にある子どもたちと「ともに」行う活動

全6事業の中から、今回はこちらの2つをご紹介します。

①紛争の影響を受けた子どもたち 12月20日/コタバト州ピキット 学校で平和を維持していくための取り組み



「平和の学校連絡会議」を開催し、3村の教師、生徒、村・町役員の計158名が参加しました。「平和を維持するため、研修の振り返りの時間や『平和の日』を設け、絶えず平和のことを考える場として『平和の庭』や『平和コーナー』を作りました」（ラジャムダ高校）など、各学校、地域での実践が共有され、町役員からは「町として今後もこの会議の開催に協力したい」との話がありました。

②先住民の子どもたち 12月2日/ブキドノン州マライバライ 建設する学校についての説明会を実施



建設中の校舎について、保護者50名を対象に説明会を行いました。コンクリートの建物を見たことがなく、不安を感じていた人々に対し、古代と現代の建築方法の違いや使用する資材、土台の作り方などについて、エンジニアがイラストを使うなど工夫して説明したところ、「コンクリートを使う理由が分かり、この建築方法でよかったと思う」（ホセさん/43歳）などの声が聞かれました。

II. できること (ICAN) を増やす活動

全7事業の中から、今回はこちらの2つをご紹介します。

国際理解教育事業 12月22日/愛知

9回目の絵手紙交流

日比の子どもたちの絵手紙交流「トゥライ・プロジェクト」を今年度も行い、4,897名が参加しました。各学校、事業地から集まった絵手紙の仕分けや展示会の準備のため、計14名のボランティアが日本事務局に来てくださり、「私が作りたい町」をテーマにした絵を楽しみながら作業してくださいました。絵手紙の一部は、2017年2月17日まで、JICA中部「なごや地球ひろば」の2階で展示しています。



MYアイキャン事業 12月17日/愛知

先輩が後輩を盛り上げ、今年度最高の結果に

中学生から社会人まで、56名のボランティアが集まり、街頭募金を行いました。うち37名は、幸田町立南部中学校の1年生で、初めての参加でしたが、「去年参加して楽しかったから」と再び来てくれた同中学卒業生のSさんが盛り上げ、皆が次第に大きな声で呼びかけられるようになりました。2時間の活動で集まった募金金額、募金者人数ともに、今年度最高となりました。



今月の Announcement



年賀ハガキの抽選が発表されました。当選発表を確認され、お手元に残った書き損じハガキはありませんか？ 古い年賀ハガキや年賀以外の官製ハガキ、未使用切手とともに、大募集しています。お手元にありましたら、ぜひアイキャンにお送りください！

〒460-0011 名古屋市中区大須3-5-4 矢場町パークビル9階 アイキャン宛

*日本事務局にて、ハガキカウント作業のお手伝いをしてくださるボランティアの方も募集しています。ご関心のある方は、お電話 (052-253-7299) またはメール (myican@ican.or.jp) にてご連絡ください。

今月の Media

11月12日 UNHCR Djibouti Inter-Agency update on the Yemen situation #49 ジブチの難民キャンプでの活動

今月の ICAN なる人

◎水谷さん、長きにわたり応援してください、ありがとうございます！

マンスリーパートナー 水谷浩志さん

「約20年間、アイキャンを応援しています」

インタビュー: 12月2日

私は、お寺の住職をしているのですが、お坊さんは、海外の貧困等の問題に関心はあっても、直接、国際協力のため現地へ行くことができないので、代わりにNGOを支援するNGOを立ち上げようということになり、今から二十数年ほど前に「アユス仏教国際協力ネットワーク」という団体を設立し、今日まで関わっています。そのアユスで、設立間もない頃のアイキャンが支援対象NGOとなったので、その頃から存じ上げていますが、設立当初からは想像もできない程、充実した組織に成長されて大変喜んでおります。

その後、アイキャンのスタッフと直接知り合うことができ、活動内容を具体的にお聞きする機会を得て、改めて、個人として何かできることがないかと思い、自分のお小遣いの中からできる範囲で協力しようと、マンスリーパートナーとなりました。それからは、知識として知っていただけのフィリピン国内での問題を、より身近なこととして考えることができるようになったと思います。今後、仕事の都合がつけば、是非スタディツアーに参加して、フィリピンの現地の様子をこの目で見て、より深く理解し、更に協力できることがないか探っていきたいと思っています。

